

## 令和5年度 第26回塩尻市公民館研究集会 参加者へのアンケートの集計結果

5月21日（日）に行われた「令和5年度 第26回塩尻市公民館研究集会」では、参加者へのアンケート調査を実施しました。以下に、その集計結果をまとめました。

- 1 実参加者数 101名（内訳 分館関係者73名 役員・発表者33名）
- 2 アンケート回収数 71名（回収率97%）

### 3 設問別回答状況

#### 設問1、本研究集会の内容について

##### 【全体会・分科会】

(1)「とても有意義であった、有意義であった」との好意的な感想が約9割を占めていました。

##### 【主な回答】

###### 『全体会』

- ・役員本人が公民館活動を楽しむ事の大切さを学んだ。
- ・公民館活動は自分が楽しくということを考えながら活動していきたい。
- ・一年通して何でもやるのではなく、自分自身できることからコツコツと進めていきたい。
- ・自分自身が楽しむ公民館活動を取り込むことで回りの人も自分も楽しむ事が出来る人を集め、コミュニケーションが出来ると思った。

###### 『分科会』

- ・各地区の活動での課題が地区の事情で異なる点、共通である点を知ることができ、参考になった。
- ・それぞれの地区によって活動の仕方が違って参考になった。
- ・色々な方の素直な意見が聞けてよかった。
- ・企画や事業の在り方（防災運動会）の必要性を考えさせられた。
- ・他の地区の分館の事が分かり良かった。（問題点等）
- ・活動のモチベーションを高めることが出来た。
- ・人を集めることばかり考えていたが、自分の楽しいことから進めていく。
- ・活動について他の公民館の方と交流でき話が出来てよかった。
- ・区内の顔をつないでおくためにも公民館活動を基点として行う取り組みはとても重要となるなあと感じました。（人の集まる・顔の見える行事を考える）
- ・生き活きた活動の実態を学ぶことが出来た。

(2) その一方で時間が短い、昨年と内容が重複しているなどの意見や要望も見られました。

##### 【主な回答】

- ・役員の経験年数によって毎年聞いている内容である。
- ・時間が短い。
- ・予定のテーマの内容と実際の分科会のギャップがあり今後の活動の参考とはならなかった。
- ・多くの分館が「役員の成り手不足」であり共感した。分館は不要と感じた。

## 設問2 研究集会の内容の今後の活用について

(1) 本研究集会の今後の活用において「活用できる、どちらかと言えば活用できる」との意見が8割を占めていました。

### 【主な意見】

- ・小さな集まりからでも出来る活動を1つでも多く実行したいと思った。
- ・実際に実施出来るように進めたい。
- ・公民館活動の参考になった。
- ・多くの人集めではなく、この指とまれ方式がよいと感じた。
- ・分館活動としてどんぐり広場を見学し、子ども参加の夏事業につなげたい。
- ・コロナ禍の間停止していた行事等、各分館の活動を参考に取り入れられるものを活用したい。
- ・夏祭りや防災行事に活用したい。
- ・やるなら自分も楽しむ行動。
- ・他地域の分館活動の内容を知れて参考になった。
- ・地区内の文化、歴史を子どもたちにどう伝えるか。親子参加の区内史跡めぐり等考えたい。
- ・行事の見直し、行事への取り組みを考えたい。
- ・他の分館の悩み等を共有でき、解決への糸口が見つかった。
- ・防災の実施。
- ・分科会のテーマが分館業や人集めに活用できそうだった。
- ・コロナで活動出来なかったことで子どもたちとお年寄りの楽しめる活動を行っていききたい。
- ・マネ出来そうな内容があったので、自分の所でも取り込めるかもしれないと思いました。
- ・自分の公民館で活用できるように考えていけそう。
- ・子どもたちを公民館へ参加させるきっかけに出来そう。
- ・公民館を有意義に活用していきたい。
- ・前向きな考え方、気楽に取り組む姿勢。
- ・参加してよかったと思えるような人権教育の場を工夫する。
- ・具体的ではないが、できるところからやる。人を集めようとしないことから始める。
- ・任期が1年なので自分では間に合わないが、引継ぎで情報提供できる。

その一方で「旧態の方法から2～3年のブランク明けで新たな方法に転換する、新たな事業に取り組む。ブランク前の状況に戻すことは困難」「他地区の方法（公民館活動）をそのままあてはめることは出来ない。（参考には出来る）」などの意見も一部見られました。

## 設問3 来年度の公民館研究集会の開催形式について

「来年度も今年度同様全体会と分科会の形式で開催がよい」「分科会のみ」が大多数となりました。また自由回答の中には扱ってほしいテーマや研究集会のやり方についての意見もありました。

全体会のみ	4人（7%）	分科会のみ	13人（21%）
全体会と分科会	39人（64%）	その他	5人（8%）

### 【主な意見】

- ・全体会で好事例全てについて説明（分科会のみでは全て聞けない）
- ・今回のスケジュールの内容が有意義でした。
- ・分科会の時間を多くしてください。情報交換の場が他にありません。
- ・少人数の分科会がよい。
- ・全体会と分科会がよい形式と思います。
- ・分科会の時間をもう少し長くしてほしい。
- ・分科会も意義はあるが、県内で実践的な活動の代表者を招いた講演会がよいと思う。
- ・公民館活動を行うためのノウハウをメインに実施してほしい。
- ・各公民館、分館で困っていることを事前に調査してテーマを決めてほしい。
- ・小規模分館活動の事例紹介。

#### 設問4 公民館活動を推進していく上で、課題と感じられていることについて

「コロナ後の活動」「役員の担い手不足・負担軽減」などの課題が挙げられました。

##### 【主な意見】

###### 《コロナ後の活動》

- ・コロナで中断された各活動の再開の意義。(区民から止めても困らないという意見もある)
- ・コロナを理由にして「中止する」「やらない」が当たり前になっていたのを、「多くの人を集める」「当然開催する」方向へ戻すことが大変だと感じる。
- ・コロナでの人とのつながりが少なくなってしまう、それを結び直すことが必要と思うが難しい。
- ・コロナ禍を経験した後の分館としての事業構築。

###### 《担い手不足・負担軽減》

- ・役員の担い手不足。地区の大御所の大きな声。
- ・役員の負担、仕事の両立→役員の成り手がいない
- ・役員の負担軽減。(役が重なっていて会議もいくつもあり大変)
- ・40代50代の地区住民を公民館事業に参加してもらい、公民館の活動内容を体験してもらい、10年20年後の役員として奮って活動してほしい。

###### 《その他》

- ・少子化の中で子どもたちを中心とした事業をどう計画していくのか。
- ・本当に必要な職務は何かを見直し、不要なものを整理していく。
- ・役員等人をまとめていく厳しさがある。(人はそれぞれ考え方が違う)
- ・役員の任期が短いので各地区が共催できる方向で考えていく必要がある。
- ・地域住民が公民館に今求めている活動が、公民館が発足した時代と異なり役員の成り手、行事の参加希望が少なくなっている。生活・仕事・勉学の状況変化に合わせた在り方見直しが必要では。

#### 5 全体を通しての意見や要望

##### 【主な意見】

- ・第5、第6分科会の部屋が隣り合わせで音漏れが気になった。次回は考慮してほしい。
- ・分科会で他地区の方と話が出来るのはよいことだと思った。
- ・若い人たちが今後公民館をどう活用できていくかを考えた方がよいのではと思います。
- ・各分館の事例発表会を開催してください。参考にしたい。
- ・他地区の状況や行動を知りたい。
- ・研究集会で多くの人と違う場所の公民館の話を書くことで新しい情報を聞くことができよかった。今後も研究集会を実施していただきたい。楽しかった。
- ・中央公民館、地区公民館が分館活動の支援をしてほしい。
- ・事業計画作成にあたり、効果的な情報提供をお願いしたい。
- ・地域住民に周知できる公民館活動案内がほしい。  
(役員のための研究集会もいいが住民に公民館活動について知らせられるもの)
- ・資料の字が小さくて見えない。
- ・各分館も今までの活動の変化期である。